
砂航蟲～旧時代～

紅翼龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

砂航蟲〜旧時代〜

【Nコード】

N8510B

【作者名】

紅翼龍

【あらすじ】

旧時代。それは戦争の時代だった。『砂航蟲』の謎(?)に包まれた過去が今解き明かされる。注；『砂航蟲』のネタバレを含む可能性があります。『砂航蟲』と相互にリンクします。作者の都合で書き直したりするかも知れません。

記録ファイルからの断片〜1〜（前書き）

過去の話の始まりです。これはプロローグにあたりますが、物凄く短いので本当の意味で断片です（笑）ネタバレ、相互リンク、新たな謎の出現。色々あるかも知れませんがそれはすべて作者の力量にかかっています。ぼろぼろかも（笑）まあともかく、新たな連載『砂航蟲〜旧時代〜』の始まり始まり〜

記録ファイルからの断片（1）

「神の完成も間近だ」

その噂が流れだしてから三年になる。だが、実際はどうだ。実験は失敗につぐ失敗で、計画自体が無かった事になるのも時間の問題だろう。戦争もこの長い期間で鎮静化するどころかさらに激化してきている。いつ上の奴等があの子の毛もよだつような計画に乗り換えるかもわからない。決してあの計画を実行に移させてはならない。早急に実験を成功させる必要がある。ファイル『神制御プログラムA方式』
に新たな定義を加えておいた。これでかなりのプロセスを短縮する事ができるだろう。

神の制御に人を使うなど、許すわけにはいかない。

（とある研究者の記録より）

第1話（前書き）

第1話です。軍人の会話の仕方が難しかったです。てか想像なのでグダグダです（；^| ^A

第1話

「まったく、あいつらは何をやっているんだ。早くしてくれないと落ちるぞ此処も」

ヴァイネル・ガシューは双眼鏡を覗きながら呟いた。その視線の先には、彼の仲間の部隊と相手の部隊との戦闘が行われている。装備はこちら側の方が良いようだが、何分相手は戦闘に投入できる絶対量が多い。その内押され始めて、最後には飲み込まれるだろう。増援が来なかったらの話だが。

ヴァイネルは双眼鏡を下ろした。軽く舌打ちをする。

「多勢に無勢だな」

血や埃などで汚れた、ただでさえ渋い顔がさらに渋くなる。長すぎて後ろで束ねた赤黒い髪と黒い軍服が風にたなびき、歴戦の戦士の威風を感じさせた。

「まあ、このまま見殺しというのも面白いか」

ふっと笑いそう言うと、彼は突然後ろから声を掛けられた。

「ガシュー大佐。そのような事を仰られては兵の士気に関わります」
ヴァイネルは振り向かず、声の主に答える。

「ディグズ中尉。そんな堅苦しい言葉は使うな。こっちの士気が下がる」

「大佐に敬語使って何が悪いんですか。というかホントにやめて下さいね。兵が不安がってるじゃありませんか」

ヴァイネルが見ると、彼の部隊の兵達が固い表情でこちらを見ている。あ……面倒臭い、そう呟いたあとヴァイネルは声を張り上げた。

「野郎共！ 一つ言っておく！ お前等にとっては悪い知らせだが……」

そこでいったん言葉を切り、全員が自分の方を見ているのを確認する。

「どうやら、俺達には明日の太陽は拝めないらしい。上からの増援が遅れているからな」

兵達が騒ついた。薄々と感じてはいたが、大佐の口からその言葉が出るとは思わなかったのだ。中にはあからさまに落胆している者もいる。

「なっ……ちよつ大佐！ 更に不安にしてどうするんですか！」

メアリー・ディグズが叫んだ。その端整な顔付きが驚きと焦りに変わる。長い茶髪に女性軍人である事を示す緑色の軍服。締まる所は締まり、出る所は出ているスレンダーな体型である。

「本当の事を言っただけだ。来ないからと焦って勝手にヤル気無くされるよりは良いだろう」

ヴァイネルは腕を組んで大仰に言う。

「それに、こう言った方が軍人として燃える奴もいるからな。そうだろう？ ディグズ中尉」

口元をさも可笑しそうに歪め、ヴァイネルはメアリーを見る。

「私はそうだとしても兵達には逆効果です！ もう少し考えてから発言してください！」

「ふむ。否定はしないのか……」

くっくくくつと堪えるようにヴァイネルは笑う。

「大佐！」

メアリーが顔を恥ずかしさからではない赤にして叫んだ。おっと、とヴァイネルは宥めるように手を前に出す。

「悪い悪い。まあ許せ」

そうおどけるように言うと、急に真剣な表情へと変わった。それから兵達へと顔を向けて激励する。

「いいかお前等！ 確かに多勢に無勢だ。しかし、お前等は熟練した戦士だ！ あんな寄せ集めの新人部隊など軽く捻り潰せるハズだ！ これがどういう事か分かるな？」

兵達は一瞬静まり返ったあと、一斉に敬礼をし声を爆発させた。
『サーイエッサー！』

「よし！　ならば奴等を薙散らして来い！　我等『ガルデイス国境
守衛軍第四十五番隊』の力を見せて来い！　仲間達を敵共々震え上
がらせてやれ！　突撃！」

空気が震えた。

地面が震えた。

世界中でも屈指の実力と謳われるガルデイスの戦士の突撃が、今
始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8510b/>

砂航蟲～旧時代～

2011年10月3日19時29分発行